

病院長	副院長	事務部長	看護部長	総務企画課長	経理課長	地域連携相談室長

報告月日 平成 30 年 08 月 09 日
報告者 相良 一枝

地域医療支援病院運営委員会および地域協議会 議 事 録

開催月日	平成 30 年 08 月 08 日（水）18 時 20 分～19 時 00 分		
開催場所	JCHO 北海道病院第 2 会議室		
委員長	中村 保博先生	事務局	地域連携相談室：相良
委員出席者 （敬称略）	[外部委員] 中村 保博（札幌市医師会豊平区支部副支部長） 柳瀬 義博（札幌薬剤師会常務理事） 藤岡 喬一（中の島福祉のまち推進センター運営委員長） 佐々木 泉顕（佐々木総合法律事務所代表） [当病院職員] 数井 啓藏（副院長兼地域ケアマネジメント部長） 古家 乾（JCHO 北海道病院 病院長）		
委員欠席者 （敬称略）	[外部委員] 佐藤 恵（腎臓内科めぐみクリニック院長） 館 睦子（札幌市豊平区保健福祉部長）		
その他出席者 （敬称略）	[当病院] 金谷 春美（副看護部長） 小野寺 正逸（事務部長）		
要旨	議題 1. 当病院の地域医療連携の現況報告 ① 一日平均患者数の推移 心臓内科の開業で患者数減であったが、以前の水準まで戻ってきている。 ② 平成 28. 29 年度 科・月別手術件数比較（手術室実施件数） 心臓血管外科の手術ができなくなったが、手術件数は増えている。 ③ 当院における上位手術件数と（内視鏡を含む）と診断群 当院がどのような病院かがわかりやすいように、資料を作成した。 ④ 紹介患者数・紹介率の推移 ⑤ 逆紹介患者数・逆紹介率の推移 ⑥ 病棟・外来利用の推移 ⑦ 共同利用（施設・設備・病床）について ⑧ 地域医療研修ついて、報告する。紹介率は算定基準の 50%を超えている。 地域医療研修について、今後の予定があるので開催は昨年並みになる予定である。		

2、その他

①チーム MBD

古家院長より活動を開始したので報告した。

②C 型肝炎治療フォーラム

埼玉医科大学 持田教授をお呼びして特別講演を行います。

③認定看護師の地域に向けた活動

金谷副看護部長より、今年から地域へ出向いて研修を行うので、ご活用下さいと依頼する。

④地域講演会の報告

別紙の通り、ACP についても講演をした。

中村保博委員長より質問

1. 資料が変更されていて、手術内容からどのようなことをしているのかわかりやすいです。大腸ポリープなどは内視鏡がほとんどですね。外科の手術件数が多いですね。今後はどのようながんの手術を主におこなっていきますか

数井副院長から、腹腔鏡手術が主ですね。年々増えています。肺がんは死亡率も高いので、特に肺がん、大腸がんの手術を行っていきたいと考えています。

2. 肺がんはどちらの病院が多いですか

数井副院長より、南三条病院が100～200例、北海道がんセンターが150例ほど、当院は30例ほどですが北海道内で肺がんの胸腔鏡手術の多い病院20施設内に入っています。大腸癌は内視鏡手術も発達しているので今後は肺がんの手術を行って行きたい。

中村保博委員長より、循環器内科でも大動脈弁はカテーテル手術が保険適応になっています。今後は内視鏡手術、カテーテル、鏡視下手術が主流になっていきます。

3. 眠剤について、やはり患者さんが希望します。認知症になるよと言ったりしていますが、

古家院長より、転倒転落などもありますので、周辺症状の対応も考慮していく必要があります。当院付属老健で入所判定会議の資料に90才近い方が睡眠剤3剤処方されていた事実や、入院して消灯の21時に眠れないからといって眠剤を処方する。退院後も続けたいと希望し処方する。私が処方を止めても、他科から処方をされることあったので、病院として取り組まなければならないと思った。

4. ACP については若い医師が疲弊しないような環境を作るためにも必要では古家院長より、医療者の中の認識もバラバラであるのも問題、市町村で事前指示書に取り組んでいる所もあります。家族間で話し合う機会を多く持って欲しいと思っています。

佐々木弁護士より、遠くの親戚が出てきて終末期医療で紛争になることがある。以前は終末期医療で紛争はなかった。そういったプロセスに参加していない遠くの親戚が不満をもつての紛争が多いです。プロセスを共有していくのは重要で文書で残していくのは大切です。

中村委員長より 本日は有益な情報交換となりました。 次回 11/14